

具体目標	事項	教育目標の具現化を意図した行事		
		球技大会	いも煮教育	文合唱祭
あたたかい人間関係をつくる	協力、親切	◎	◎	◎
	寛容、素直	◎	◎	
	思いやり		◎	
	言葉づかい		◎	
	奉仕の精神		◎	
計画と実践力を養う	計画と実行		◎	◎
	意見をのべる		◎	◎
	行事への参加	◎	◎	◎
	反省と工夫改善		◎	◎
美しいものを美しいと感じる情操を高める	美しい心		◎	
	正しい主張	◎		
	自由と責任	◎	◎	◎
	美への感動			◎
	環境づくり			◎
芸術への親しみ			◎	

(5) 学年協議会の一例 (10月6日実施)

① 議題 いも煮会について

② ねらい

ア 自主、協同の精神と健康な身体づくりに役立つ。

イ 心身に障害を持つ同じ世代の生徒に接することにより、「思いやりの心」や「寛容と協調」の精神を育てる。

ウ 広い心を持って、相手の考えや立場を尊重することのできる態度を養う。

エ 交通安全の指導に関する実践の場とする。

② 実施期日及び場所

ア 期日 昭和58年10月12日 (水)

イ 場所 浄土松公園 (学校より徒歩 6.5 km)

※交流校 福島県立ろう学校中学部

③ 協議会の内容

第4回学年協議会要項 (昭和58年10月6日実施)

1 開会のことば	副会長 (生徒)
2 会長のことば	会長 (生徒)
3 先生のことば	担当教師並びに学年主任
4 議 事 「県ろう生を交えたいも煮会の打合せ会について」	
(1) 日時 10月8日(土) 創意の時間	
(2) 活動内容	
① 各クラスの代表者が昇降口まで迎えに行く。「2年〇組の学級の者です」 ※前もって紙に書いたものを「下足は〇〇に置いて下さい」 用意しておくこと。	
② 学級委員がクラスの全員を紹介する。大きな拍手で迎える。自己紹介になる場合もある ※決して笑ったりしないこと。	
③ 班長は県ろう生を自分の班に連れて来る。班内で相互に自己紹介をする。 ※紙に書いて置くのもよい。	
④ 各班で献立について話し合う。 ※みんなで調理ができて みんなで分けて食べられるものを計画する。	
⑤ 各自に持ってくるものの分担をきめる。 ※県ろう生の中には、バス通の人や寄宿している人もいるのを忘れない。	
⑥ 帰りは再び学級委員が昇降口まで送る。 ※相手の人の気持ちを考えて行動しよう。	
5 先生のお話	
6 閉会のことば	副会長 (生徒)

(6) 第二回自己評価と生徒の変容 (11月26日)

※ 質問に対して「はい」と答えたものを前回と比較した

※ 数字は百分率を示す

※ 上段の — 線は前回の結果、下段の — 線は今回の結果を示す

具体目標	到達目標	0	50	100%
③ あたたかい人間関係を作る	ア 他人に対して親切にしたり協力することができる。	— 17	— 61	
	イ 他人の助言や注意を素直に受け入れることができる。	— 33	— 47	
	ウ 相手の立場を考えた言動をすることができる。	— 25	— 44	
	エ 正しい心のこもった言葉づかいができる。	— 9	— 24	
オ	学校や学級をよくするために係活動や奉仕活動をする事ができる。	— 27	— 41	

▷考察◁ いも煮会を通しての交流教育は、「あたたかい人間関係をつくる」うえに大きな効果を得たようである。第一学期(7月)にも、県ろう校の呼びかけにより、レクリエーションを通してのスポーツ(球戯)による交流が行われているので、生徒たちの身体障害者に対する「思いやり」の心は、ある程度培われていたと考えられる。

学年協議会で話し合った事項をもとに、各学級では、県ろう生を迎えるために、いろいろと趣向を凝らして準備を整えたのであるが、交流教育のねらいは、生徒たちによく浸透したようである。「正しい心のこもった言葉づかいをする」は、地域の特殊性にもよるが、まだまだ不徹底の状態に近い。教師自身も、生徒との会話には気を使うことはもとより、小学校との密な連携も十分に考えてみたい。

「積極的に奉仕活動をする」と答えた生徒の数も気になるところである。学年協議会を通し、学級会活動などで、十分な反省と実践への指導を積み重ねるようにしたい。

④ 計画と実践力を養う	ア 生活計画をたてて実行している。	— 12	— 11
	イ 学校行事や学年、学級行事の計画について質問や意見を述べる事ができる。	— 16	— 12
	ウ 学校行事や学級の係活動、部活動に積極的に参加している。	— 23	— 51
	エ 諸活動を反省しながら、よりよい実践ができるよう工夫、改善をしている。	— 18	— 23